

サービラーニングとは

1980年からアメリカで始まった教育活動の一つで、「**社会活動を通して市民性を育む学習**」です。

具体的には、「見返りを求めない伝統的なボランティアの概念に基づくものの、しいて言えば『学習』を見返りとして、ボランティアサービスを提供する学生側とそれを受ける側とが対等の互酬関係に立ち、学生がボランティア活動の経験を授業内容に連結させ、学習効果を高めるとともに、責任ある社会人になるために行うボランティア活動」といえます。（参考：「ボランティア白書 1999」日本青年奉仕協会）

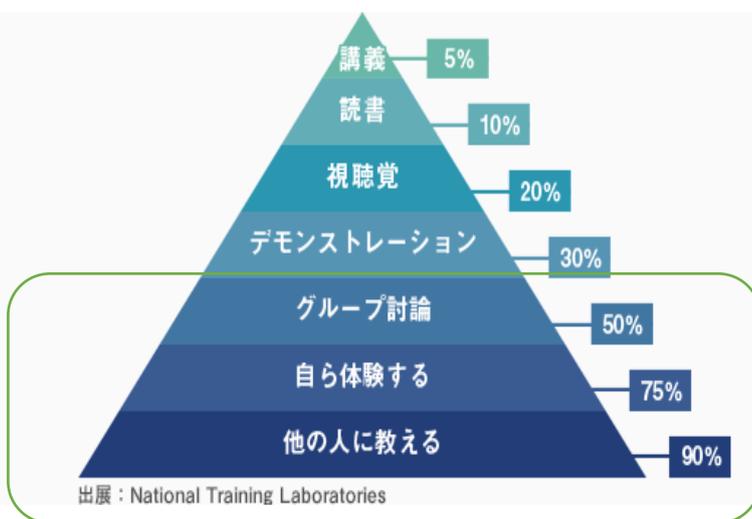
サービラーニングの8つの視点

	項目	詳細
1	リアルな人物・課題	地域で生活している方々やその地域の課題に、身近な生活や方々から学ぶことができているか。疑似体験だけにとどまらない、リアルな声を届けることが重要である。
2	学習目標の設定	授業を行うにあたっての明確な目標が設定されているか、また、教員間やスタッフ、ゲスト等かわる人々で目標の共有をし、科目の目標も明確にすることにより、教育活動全体の位置づけを明確にしたり、他の教科活動と連動させたりすることが必要である。
3	児童生徒の声と計画づくり	教員側がすべてを仕切るのではなく、子どもたちからの提案やアイデアが実施でき、疑問などにこたえられるプログラムにする。
4	オリエンテーションと研修	子どもたちが目標を達成するために、必要な学習や事前の研修を行い、学びの機会を保障できるか。また、活動上のリスクマネジメントについても意識する。
5	意義のある活動の保障	教育活動の一環であるとともに、地域の役に立っている、また実際に何か社会により良い変化を起こす活動になっているか。 また、地域の方々や活動としての受け皿となる地域との関係性を構築したり、個別で関係ができることも重要である。
6	振り返り（リフレクション）	活動において、必ず、リフレクション（振り返り・活動を再度よく考える機会）を行う。体験活動において、リフレクションはとて重要になってくる。
7	評価	参加者自身による評価と指導する側による評価がある。さらに、どちらの評価にも、取り組みや学びの成果を、参加者個人について評価する、またはプロジェクトとして評価するという2つがある。
8	祝福と認知	参加者たちがサービラーニングを通して地域に価値ある貢献をしたということを認知し祝うことによって、自分たちの活動の価値を強く自覚させることができるのと同時に、学んだことの価値についての自覚も高めることができる。報告会などで、地域の人たちとつながり、認められることで次にやりたくなる意欲がわく好循環が生まれる。

全国社会福祉協議会、サービラーニングを取入れた福祉教育のモデル事業について

モデル事業では、学校と社協（福祉）が連携して、地域福祉の課題を題材に様々な団体に協力していただきながら、児童の主体的な学びを促すようなプログラムを実施するとともに、学習効果を深めるために社会貢献活動をプログラムに位置付ける。

また、総合的な学習の時間におけるサービラーニングを取入れた福祉教育の効果を測定する。

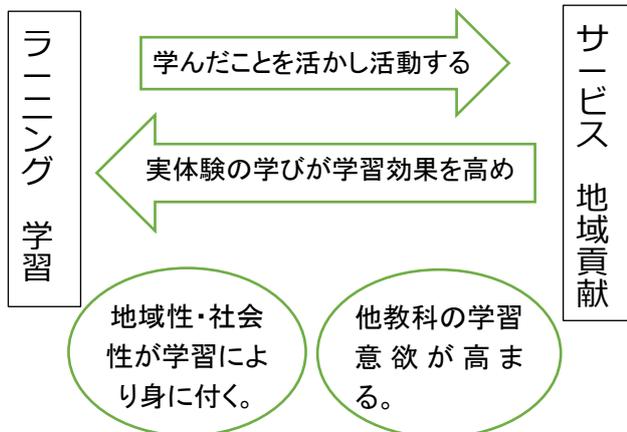


（伝統的な学習方法）

- ・先生の話聞く、
 - ・教科書、資料を読む、見る
 - ・映像やネット学習でノートをとる
 - ・実習・演習する
- ※教育者が主体で、児童は受動的

（これからの学習方法）

- コミュニティスクール（アクティブラーニング）の展開
- ・地域課題等を討論し、地域貢献を掲げて学習する。
 - ・学習して得たことを地域に活かす。



様々な団体（人）と連携して学習の取組み

【連携先】

専門職・当事者・地区社協・民生委員・ボランティア・事業所など

【メニュー】

校内もしくは校外で地域の取組みを調査する。高齢者と交流する。地域貢献活動をする。

【主体的な学習+能動的な活動+リフレクション】

自らが学び、課題分析、行動、振り返り、評価の一連の流れで、自身の生活者としての主体的な成長を促す。